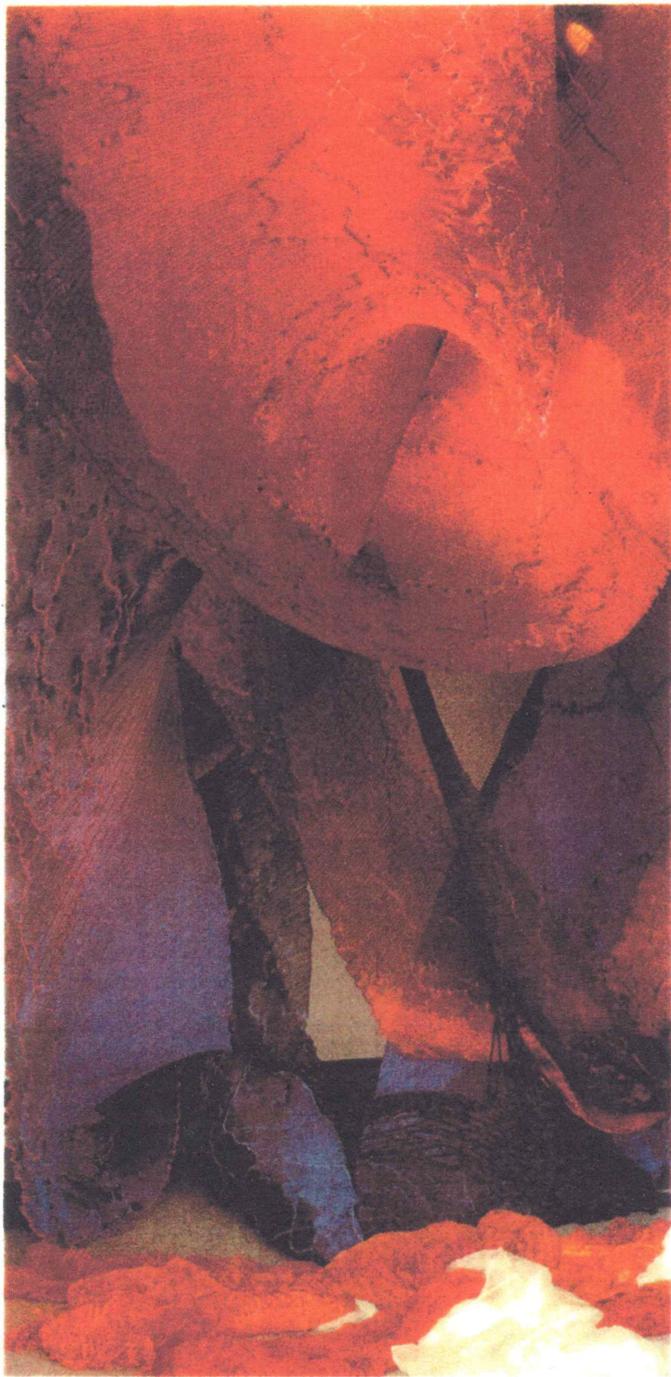


アナーキーな布の歌



ATSUKO YAMAMOTO 個展より 上糸と下糸の調子を狂わせたい2mmのジグザグ・ミシンを、プリーツをかけたオーガ
ンジーやジョーゼットにステッチ後、煮沸し、糸の収縮によりギャザーを出した素材群



上/'90.4.26に催された天野
勝氏と山本篤子氏ジョイント・
コレクションより
PHOTO: MASAYUKI HAYASHI
DRESS: MASARU AMANO
水溶性ビニロンの上に糸をコ
ラーージュし、さらにその上に水
溶性ビニロンを重ね、サンドイッ
チ状態になった配置された糸
に、上から格子状にステッチを
かけた後、水溶性ビニロンを溶
かし製作された素材を用いた
コスチューム

刺繍の繻を捨てて刺に徹する彼女のステッチ
ド・テキスタイルの技法は、大別して2種あるが、
その典型的な表現は、刺す基布を捨てて、刺し糸
だけで構成されるデザインである。これは基布に
ステッチした後、その基布を溶かして糸だけ残す
のだが、英国では、アイロンを当てると炭化して
しまうペニシリング・モスリンを基布に使う。し
かしその繊維にアレルギーを起こす彼女は、温水
で溶解する水溶性ビニロンを使う方法を生みだし
た。これにはテープや布切れをサンドイッチして
ステッチしたり、半溶解などのバリエーションも
あり、彼女の特許になっている。この方法から縫
い目のない服、あるいは縫い目しかない服を作る
こともでき、西友の無印商品のデザイナーでもあ
り、ロンドンのセントマーティン芸大出身で、い
わば同じ英国派の天野勝君と組んで、ジョイント
ワーク展を開催したこともある。

もう一つは、ジョーゼットなどの基布にループ
状にステッチを施し、煮て皺を出すなどの方法で、
凹凸に富むマチエールを描き出す方法である。

横浜のロフトのアトリエから始め、いま神戸の
灘の自宅兼アトリエで行われている彼女の創作活
動の旺盛さは、ここ数年、個展、グループ展、ジ
ョイントワーク、ディスプレイアート、舞台芸術
など、関西関東、北海道、英国を舞台に年間10件
を超えていることから推察される。彼女の手縫
いやミシンを通じて、糸は古代以来の縦横の秩序
から開放され、もう一つのアナーキーな布の歌を
歌っている。